



なは

市民の友

第703号 毎月1回発行
2009年(平成21年)

8月

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎867-0111 ●印刷 (株)近代美術

市の人口と世帯	
※()内はうち外国人	
2009(平成21)年6月末現在	
総人口	316,875 (2,120)
男	152,838 (1,086)
女	164,037 (1,034)
世帯数	133,812 (1,280)
住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)	
本 庁	94,848
真和志	104,348
首 里	58,077
小 禄	57,482



やっぱり「なは」が好き!

7月8日は「なはの日」

語呂合わせで「なは」と読める7月8日を「なはの日」と定め、多くの人が那覇について語り、那覇のことを想い、那覇を愛し、那覇のため出来ることを行ない那覇を再認識しようとして、なはの日制定実行委員会が主催となって、7月8日を中心に前後の数日間に行われ、「なはっていいよね」を合い言葉に、市内各地で様々なイベントが開催されました。

7月7日(火) にてんぶすホールで、なはの日関連事業として行われた「那覇市福祉のまちづくり条例啓発事業講演会・シンポジウム」には、専門学校に通う若者や多くの市民のみなさまが来場。障がいの有る無しに関係なく、誰でも利用できるという視点で、実際にサービスを提供している事業者がパネリストとして紹介する事例を、熱心にメモを取る姿が見られました。

また、7月8日(水)に同じく関連事業として行われた「壺屋地域文化財清掃」には、壺屋町民会や壺屋やちむん通り会、壺屋陶器事業共同組合など多くの方々が、南又窯やちむん通り周辺の文化財の清掃や草刈、木の剪定を行いました。

清掃に参加した方は、「7月8日をなはの日と制定するのは、改めて自分の住む町に見つめなおし、更に愛着を持つ機会になるので、いいことだと思えますよ。私は大賛成です」と笑顔で話していました。

主な紙面

- 2 「なは」の出し方 みんなで守るゾウ
- 3 那覇市憲章のあゆみ
- 4 子宮頸がん検診・乳がん検診が無料に…
- 5 市役所本庁舎は「仮庁舎」へ引越します
- 6 情報PACK
- 7

協働のまちづくり つむぎ 那覇を紡ぐ

48



「協働」とは、まちづくりのために、市民・事業者・市民団体・行政などが、それぞれの特性を発揮しながら協力しあうことです。

市では、「協働によるなはのまちづくり」の一環として、昨年度「なはのまちを考える講座」を開催しました。

講座では、市民と市職員が一緒に様々なまちづくりの事例を学び、自分たちで取り組みたいと思うまちづくりのテーマを決めてワークショップを行いました。3月には、テーマごとにグループで話し合い、思い描いた「協働によるなはのまちづくり」をフォーラムで発表しています。

フォーラムでは、市民・市職員の区別無く司会や会場設営、記録係などの裏方も行い、協働による開催になりました。

今年度は、「協働ルール」を策定するため、第2弾として実践編を開催します。

その「なはのまちを考える実践講座」を開催するにあたり、現在、「なは市民協議会」が中心となつて講座の企画案を作成中です。「なは市民協議会」とは、昨年度の講座に参加した受講生が中心となつて自主的に結成した市民組織です。

受講生だった市民の目線を企画に取り入れることで、より市民が求める講座内容になると期待しています。また、議会の承認を経て予算化された事業を市民が中心に

協働による 「なはまち講座」

この取り組み自体も協働によるまちづくりです。

企画立案には、ノウハウを持つNPO組織や沖縄自治研究会のアドバイザーの協力を得て、お互いに気づきを得ながら作業を進めています。

「なは市民協議会」の代表者である饒波正博さんは、「昨年の講座で、すでに多くの人たちが那覇のまちづくりに参加されていることがわかった。あとはこれらの活動や市民の想いを横に縦に繋げていけば自然にルールは見えてくるはず」と抱負を語ってくれました。

(3面に募集記事)



なはのまちを考える講座で、活発な意見を交わすなは市民協議会のみなさん。